

目次	意見
第1部 はじめに	
第1章 第5次総合計画について	
1. 計画の目的	<p>■社会動態で、年齢5歳階級のコーホートで推計し、進学や就職でそのまま戻ってこないというパターンに言及して終わりではなく、そこから若い人たちが亀岡に戻ってきたくなる政策まで言及してもいいのではないかと。</p> <p>■住宅開発について、第1章に記載は難しいかと思うが、多様なライフステージに応じた、住み替えができるまちに亀岡はなっていないと思う。子育て世代、高齢者や二世帯住宅など、ライフステージに応じたまちづくりをするとよいのではないかと。</p> <p>■住民がわくわくし、ここに住みたいというキーワードが必要である。</p> <p>■4段落目において、時代の潮流やあるべき姿が具体的に記載されていない状況である。こちらに、青山委員の意見を踏まえて記載されると、具体的な記述になると思う。</p> <p>■こちらは京都サンガのホームグラウンドではあるが、練習場や宿舎などは城陽市にある状況である。選手や監督、その家族も亀岡に住んでもらい、亀岡の良さを全国に発信してもらうのは取組として面白いのではないかと。そういった点も盛り込んでいただければと思う。</p>
2. 亀岡市を取り巻く社会経済の潮流	<p>■第2章に限らないが、なるべく図表やビジュアル、根拠を入れていく必要があると思う。例えばだが、第2章「2.地域に波及する人・モノ・情報の国際化」において、国際化や多文化共生についての文章がある中、亀岡市内に居住する外国人の数字が入っていない。過去のデータもあり、今後増えていくシナリオは想定できると思う。</p> <p>■それぞれの情報について、図表があるとわかりやすいと思う。亀岡市の人口の減少についても、文章だけの記載より図表があればどう減るかもわかる。</p> <p>■潮流と併せて、リソースについても言及してはどうか。社会環境に合わせて、亀岡市の構造は変わるべきである。吹田市は万博で大規模開発を進めてきたが、近年、高齢化に伴い見直してにぎわいを取り戻している。リソースは大事だと思う。臨機応変に活用して、持続可能な社会実現の方向へ持っていくことが重要だと思う。</p> <p>■人口減少に伴って住民税が減るのは目に見えており、地方交付税に依存しない自治体経営を目指す必要があるのではないかと。そのため、財政についても総合計画において触れる時期が来たのではないかと。これまで国が面倒をみてきたが、これからは自前でやらないといけないうことを、市民に財政について伝えていくことも重要ではないかと。</p> <p>■現状では普通の言葉が入りすぎている。環境問題の箇所では、プラごみやアユモドキといった亀岡らしさがあるが、それ以外の箇所においても加えてほしいと思う。</p>
1. 少子化・高齢化と人口減少	<p>■社会動態が「1.少子化・高齢化と人口減少」に入っていないといけないう。例えば、大津市は人口が増えているが京都市から同じ距離感である亀岡市は人口が増えていないとするならば、そのような中で頑張っていく方向性を記載するなど、第2章の潮流においても尖がらせる必要もあると思う。</p> <p>■合計特殊出生率についての記述があるが、女性が子どもを産むのは、男性がいて初めてできることなので、「1人の女性が生涯に産む子どもの平均人数」という表現では、女性に対して一方的に触れているように感じる。</p> <p>■ベッドタウンに関する記載を検討してほしい。また、施策や事業については、青山委員から意見があったライフステージに応じた住宅の提供などが関わってくるのではないかと。</p>
2. 地域に波及する人・モノ・情報の国際化	<p>■亀岡市の観光資源について触れている中で、三大観光について記載されている。観光資源になり得るものはまだあるとこれまでの議論にあった。今後10年の中で、観光資源となる可能性のあるものを入れていく必要があると思う。</p> <p>■森の京都など、他団体と連携して取り組んでいる事例も入れて良いのではないかと。自然というキーワードは“わくわく感”とも重なってくると思う。また、アンケート結果でも自然の豊かさが定住意向につながっていたかと思うので、自然で選ばれる亀岡という視点もお願いしたい。</p>
3. 情報通信技術の進化と普及	<p>■例えば、通信をやめて「情報コミュニケーション技術」やAIの要素を盛り込むなど他にもあると思う。「3. 情報通信技術の進化と普及」の記載内容はこのような感じと思うが、市における取組がたったの2行なのは寂しい。例えば亀岡のスタジアムでは、情報技術のスクリーンを備えていると聞いていたので、それらを活用など、考え方を記載してはどうか。</p> <p>■“新たな時代に必要となる人材育成”と記述があるが、どのくらいの世代の方を育成するのかと思った。子どもたちの学校教育の中に入れていく方が良いのではないかと。学校教育の現場でITの取組を進め、亀岡の子どもはITに特化した教育を受けている、といったことができればよいのではないかと。</p>
4. 常態化する自然災害リスク	<p>■自助・共助の重要性について触れられている。京都府下の中でも亀岡市は、民生委員が定数に近い人数を確保できており、充実している。民生委員や児童委員など、多くの市民が活動されており、特に災害時にはそのような方々の活躍が求められるので、そういう視点も盛り込まれてはどうか。</p> <p>■数年前、嵐山が水に浸かり保津川周辺でも深刻な被害が出た。亀岡においても大変ではあったが、昔から人が住んでいる場所は浸かっていない。すなわち、亀岡においてグリーンインフラが実現できていた。先人の知恵で災害が少なくできるという旨を入れても良いと思う。</p> <p>■災害を防ぐ視点ももちろん必要であるが、災害が起こった後の長い避難生活を少しでも快適に暮らせるようにするためにはどうしたらよいか、これらは男女共同参画の視点も必要であり、取り入れてほしいと思う。</p> <p>■避難所についての話を基本構想内に書くのは難しいかもしれないが、どの性別でも過ごしやすく、不自由が少なくなるような避難所運営が求められているところである。</p> <p>■潮流に書くのであれば、基本構想という位置付けではあるが、災害発生直後の体制や、NPOと事前に連携体制を作っておく視点もあって良いのではないかと。4つの段階（(1)直後対応、(2)復興、(3)減災、(4)備え）で捉えると可能だと思う。現状は段階が混ざっている。</p>
5. 地球環境問題の深刻化	<p>■普通の人を読むと、その後の話がSDGsにどう接続するか全くわからないのでは。亀岡にある企業や団体、地域の取り組みがSDGsにつながっているということが示されるとよいのではないかと。それらに加え、記載されている環境計画もSDGsにつながり、あらゆる活動がSDGsにつながることを、ここで示すことはできないか。この記載だとSDGsが雲の上にあるように思うので、もう少し地におろしてもいいのではないかと。</p> <p>■環境先進都市を目指す中で、今もしていると思うが、教育面からも触れて良いのではないかと。教育はとても大事であるので、この分野の教育に力を入れているということを示すことができればよいと思う。</p>
6. 産業を巡る環境変化	<p>■亀岡は京野菜の大部分を担っている地域でもあり、農業は亀岡ならではの1つである。若い人が入りやすい状況を作っていたらいいか。都会から亀岡に来て、農業したい人が土に触れ、子育てして暮らしていくという方向でアプローチするなど、敷居を低くして、亀岡なら実現できるという話にもっていかないか。</p> <p>■「6.産業を巡る環境変化」では、米や野菜についての記述や、京野菜の一大産地であることが示されているが、亀岡の特性として、若い農業者が多いのであれば、図表を入れるなどを検討いただければと思う。詳細は基本計画に記載することになると思うが、総合計画を見た人が、亀岡で農業をしてみようかなと思える仕組みづくりが出来たら良いだろう。</p>

第3章 亀岡市のまちづくりの今	<ul style="list-style-type: none"> ■セーフコミュニティも入れていく必要があると思う。 ■亀岡の“かつこ良さ”や“わくわく感”を分かりやすく伝えられればと思う。例えば、絵が入ってくると分かりやすくなる。 ■自然環境や農業に関してあまり入っていないので、項目を増やし、書き込んでほしい。 ■工業についてだが、現在日本で出来ているのは生き残っているからであり、それを評価することも重要ではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ■「亀岡市社人研推計」という表現は正しくないのではないかと。国立社会保障・人口問題研究所における亀岡市の数値であるため、表記に注意してほしい。 ■2040年における合計特殊出生率が2.07は、さすがに問題ではないか。国ですら1.8が目標である。達成の見通しはないのではないかと。こういうところから計画の信頼性の問題が出てくるため、やめるべきだと思う。上昇するとしても、国の目標である1.8ではないか。 ■定住人口は独自試算があっても良いと思うが社人研推計のデータ推移が最も説得力があると思う。 ■合計特殊出生率の2.07に対する意見は賛成である。その上で人口をどう考えるかがポイントである。社会動態が重要であり、それが振れるだけで人口は大きく変わってくる。 ■国が行っている亀岡市の推計は、社会動態がどのような数値で、何年にいくつ、というものがあれば、わかるように記載願う。 ■ベッドタウンであっても、ライフステージに応じた住み替えができるまちであれば、良いと思う。現実には、売り出す際に売れる世代をターゲットにしていまいがちである。帰ってきたいという要素を社会動態と見込んで人口を設定したほうが、説得力があるのではないかと。社人研の推計も科学的根拠がないわけではないが、改めて見ると合計特殊出生率を2.07にするのは、これからのまちづくりでは無くて良いのではないかと。
	<ul style="list-style-type: none"> ■農業について、10ページの交流人口や関係人口の項目に若い農業者をどう取り込んでいくのかも言及して良いのではないかと。 ■交流人口の目標数値については400万人ほど（坂本委員作成資料）が示されてあったが、これをどう使っていくかが大事である。同じ推計値を掲載するのか、検討願いたい。今回の計画策定にあたってはコンサルタントが入っていると思うが、坂本委員がされているような算出手法は全国的に推計されていると思うので、願いたい。 ■社人研の推計どおりになるとは思わないものの、定住人口の減少は暗いニュースになりがちなので、明るさを伝えるのであれば、交流人口や関係人口も市民に伝えるべきではないかと思う。
第2部 まちづくりの展望	
第2章 土地利用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ■都市計画マスタープランとの関係も注視する必要があり、整合をとる必要がある。スタジアムに関する記述、自然や農業住宅地の考え方についても入れていただければと思う。
3. ゾーン別地域振興の方向	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツ観光の資源はどこに入るのか。交流や観光・レクリエーション機能の向上などは記載されているが、スタジアムを中心としたスポーツ・レクリエーション機能について触れられてはどうか。
第3部 重点テーマ	
1. 子育てしたい、住み続けたいと思えるまちへ	<ul style="list-style-type: none"> ■「ここに帰ってきたい」という要素も入れられないか。 ■亀岡で生まれて住み続けてもらうより、一回外に出て、戻ってきてもらう、もしくは外から来てもらうのが良いと思う。 ■2代目や3代目が亀岡で商売したいと思えるようになることも大事である。若い人が亀岡に来て生きていく、みんなが元気で“わくわく感”もあり、応援できるような力強いメッセージを盛り込んでいただければと思う。 ■農業政策について重点テーマで記載が無いとあったが、重点テーマ2の中で、そういう点も入れていただければありがたい。 ■重点で農業を抜いてしまっても良いのか。衰退する産業だからいいという整理ではなく、亀岡の性格を打ち出すものであれば、もう一個増やしてもいいのではないかと。検討願う。 ■スポーツ庁も多様な楽しみ方という意味合いで「スポーツ・レクリエーション」としていることに加え、ゾーン別振興の方向においては「観光・レクリエーション」という表記になっていることから、レクリエーションを加えるのはどうか。
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ■目次を再度見てほしい、委員も整理して発言する必要があると思うが、先の議論は第1部第2章や第3部重点テーマにも関わり、以降の施策の大綱にも関わってくる。どの部分でどれを強調するか、委員としても把握しておく必要があるのではないかと。 ■三大観光以外で特に力を入れているのは、スポーツ観光である。 ■観光について、自然環境を活用する視点は重要。 ■登下校中に見守りも実施しており、地域で見守っている、安心なまちといった魅力もある。 ■亀岡市は昼間人口が8割半ばである中、ベッドタウンを基本としたまちづくりで今後10年やっていけるのか。 ■農業や商工業をはじめ、産業にも触れていただきたい。 ■全体として産業が少ない印象を受ける。 ■京都市近郊であることから、和菓子屋など、都市型の産業が亀岡市にもあると思う。日本電産などもキーワードになると思う。亀岡らしい産業誘致について記載を進めていただければと思う。 ■これらの文章の中に、連携に関する記述は検討できないか。例えば、農商工や産官学、都市間の連携などである。圏域で大きく見た発展が入っていないので、その点も願いたい。